

平成30年度研究科入試問題（第2次）

東洋史（出題意図）

（人文社会科学部 言語社会文化専攻 社会文化コース）

1

東洋史の基本的で重要な問題についての知識・理解と論理的表現力を問う問題である。

- (1) 中国史で繰り返し研究されてきた重要な論点である唐代の国際関係について、近年の研究動向を踏まえた知識・理解と論述力量を問う問題である。
- (2) 中華王朝の統治を考える場合の重要な論点である辺境政策について、その歴史的理解と論述力量を問う問題である。

2

東洋史の重要事項についての基礎的知識の有無を問う問題である。

- 1 儒教の経書『周礼』について解説させることによって、中華王朝時代の政治文化の理解度を問う問題である。
- 2 戦後日本の中国史学研究を牽引した学者の1人である「西嶋定生」について解説させることによって、日本の中国史学の研究史の理解度を問う問題である。
- 3 中国南北朝～隋唐時代の支配層を構成していた「閩隴集団」について解説させることによって、当該時期の政治・社会についての基礎的知識と研究史の理解を問う問題である。
- 4 中国宋代以後明清時代の支配層であった「士大夫」について解説させることによって、当該時期の政治・社会についての基礎的知識を問う問題である。
- 5 「白蓮教」について解説させることによって、中国史における代表的な民衆反乱についての知識を問う問題である。
- 6 中国の経済史において重要な役割を果たした「大運河」について解説させることによって、中国史における経済と流通についての基礎的知識を問う問題である。
- 7 新文化運動を牽引した胡適について解説させることによって、中国文化とその近代化に関する基礎的知識を問う問題である。
- 8 中国の人類学者・費孝通について解説させることによって、現代中国の民族政策についての基礎的知識と歴史的理解を問う問題である。

3

東洋史研究に必須の史料の読解力・分析力を問う問題である。本題では『漢書』匈奴傳の一節を提示し、胡漢関係について胡族側の考え方を端的に読み取れているかどうかを問う問題とした。